

平成 29 年度第 3 回京都府認知症疾患医療センター連携協議会
摘 録

- 日 時 平成 30 年 3 月 5 日（月） 16：30～18：15
- 会 場 京都府医師会館 310 会議室
- 出席者 別紙のとおり
- 内 容

1 開会

定刻により、事務局が開会を宣言。委員長代理として高齢社会対策監が挨拶。

2 報告事項

（１）平成 30 年度京都府認知症関係予算案について

- ・事務局から説明

（２）認知症関係施策の実施状況について

- ・事務局から説明

（３）改正道路交通法施行後の状況について

- ・事務局から説明

3 意見交換

（１）新・京都式オレンジプランについて

＜意見（認知症当事者による発信）＞

- ・関係機関向けの若年性認知症にかかる研修会では他圏域の認知症当事者にお話しいただき、参加者の反応もよかった。今後は自分たちの地域の認知症当事者にお話しいただけるとよい。
- ・研修会や講演会等で本人が発信できる機会が持てればよいが、一緒に動いてくれる仲間（ピアサポート）があって初めて実行できる。また、パートナーが必要。

＜意見（本人・家族教室の実施）＞

- ・現在も患者家族を中心に家族教室を行っており、テーマによっては 10 人～20 人程度の参加があるが、さらに充実させたい。
- ・家族教室は職員の体制上自病院の患者家族に限定せざるを得ないが、地域向けには別途研修会や講演会を行っていききたい。
- ・特別養護老人ホームや老人保健施設内で行われる研修会や事例検討会に講師として参加している。現在このような連携を行っている施設は退院後の患者の受け入れが多いか、外来によく職員が同行している施設に限定されている。

- ・圏域全ての施設に同じような連携を取ることはすぐにはできないが、広く参加を呼びかけているセンター内で行う研修会に参加いただいたり、退院後の施設入所時のフォロー等で関係ができれば連携できる施設を増やすことはできる。
- ・現在患者家族を対象にして行っている家族教室について、対象者を拡大して実施したい。
- ・本人、家族への支援が弱いと考えており、本人・家族教室は30年度に実施したい。

＜意見（その他）＞

- ・かかりつけ医のための認知症診療マニュアルは現在ほとんど使用されていないため、加筆等による中身の充実を検討したい。
- ・認知症サポートナースについて、院内で周知するとともに、事例報告会等で成功体験を共有する取組を実施したい。
- ・十分とは言えないが、サポートナースが院内で他のナースに助言しフォローする体制を整えつつある。
- ・「在宅・入所相互利用加算」（ルームシェアリング）を同和園が行っており、協力関係を維持したい。同和園では一つのユニットを二人で隔月で利用しているが、在宅生活を続けたいが在宅のみでは生活の維持が難しいケースについて、一ヶ月特養で生活し休めることは大変有効であり、さらに普及すればよいと考えている。
- ・院内のサポートナースが中心に「認知症看護委員会」を組織し勉強会などの活動をしているため、支援を行いたい。
- ・サポートナースが認知症入院患者のケアを積極的に行っており、看護部が行う会議に参加する等連携を深めたい。
- ・香川県三豊市内の認知症疾患医療センターである西香川病院が官舎を活用して認知症カフェを実施されており視察を行ったので概要をお伝えする。
- ・カフェは、患者が診断後に苦悩を抱えたまま自宅に帰るのではなく、受診後に立ち寄って少しでも安らいでほしいという思いから始まった。
- ・このカフェでは患者の一人である認知症のご本人が非常勤相談員として採用され、ピアサポートが実施されており、そのご本人も生き生きと活動されていた。

(2) 認知症疾患医療センターの事業評価及び指定更新について

■事務局から説明

- ・平成30年度も引き続き同じ項目で事業評価につなげたい。

<意見>

- ・来年度は認知症重症度（CDR）を取りたいと考えているが、簡易な取り方はあるか。
→学問的に把握するものではないため、MMSEから推計している。

4 その他

第5回認知症疾患医療センター全国研修会（福島県郡山市）について

■京都府医師会から報告

- ・平成30年度秋頃に第6回認知症疾患医療センター全国研修会を滋賀県の藤本クリニックの藤本先生が大会長となり開催される予定。

以上